

報告日 令和 6年 12月 16日 (月)	報告者 吉武惇二
分科会名 古文書を読む会	開催テーマ：酒井伴四郎の江戸勤務日記
開催日時 令和 6年 12月 12日 (木) 午前 10:00 ~ 12:00	開催場所 金沢区民センター AB 会議室
参加人数 男性9名 女性3名 合計12名 (欠席者2名)	
<p>学習会の冒頭にあたり、真田講師より4種類の資料、①箱根浴湯記(原文コピー)、②箱根浴湯記(積文)、③酒井伴四郎日記の積文追加分、④古文書を読む会の「連絡会」報告会の概要、が配布された。資料①②は2025年4月以降使用するテキストであり、資料③は2025年1~3月に使用する追加分である。資料④は2025年1月11日に開催される「わの会」と分科会の打ち合わせ会に、真田講師から報告される「古文書を読む会」の来年度学習などの概要である。</p> <p>この日記を読み始めた頃に奇異に感じたことは、誰誰と「同道にて」寺社に参詣するという文言が頻繁に出てくることだった。当初は、一緒に外出することを「同道にて」という言葉を使うのかと思っていたが、それにしても余りにも数多く出てくるし奇妙だなと思っていた。これはどうやら、江戸生活に次第に慣れてくるに従って、同じ紀州藩の下級武士同士で外出し、江戸見物を楽しむことができるという都合の良さがあったようだ。色々見世物や芝居などを楽しみ、蕎麦屋、蒲焼屋、茶漬屋、鳥鍋屋に出入りして、酒を飲んだりしている。昼間から外食し、おまけに酒まで飲むことに奇異に感じる読者もいようが、伴四郎は現代流に言えば単身赴任であるため、昼の外出時に昼食を外で済ませることに、何ら違和感はなかったはずである。</p> <p>「酒井伴四郎日記」から、江戸における下級武士の生活ぶりや食事情に触れたが、一般的に現代人よりもはるかに心の豊かさをもった生活ぶりを感じさせる。</p>	
<p>次回予定 令和7年1月9日(木) 10:00~12:00 場 所：金沢公会堂会議室 テーマ：酒井伴四郎の江戸勤務日記</p>	